

様式第1-1 別紙5

特定宿泊事業者

名称 (宿泊施設名称)	株式会社 大丸別荘			
住所	〒818-0058 福岡県筑紫野市湯町1丁目20-1			
事業内容	旅館業法に基づく旅館・ホテル営業(平成30年6月14日以前に営業許可を受けた旅館営業)			
総客室数	41室			
代表者氏名	山田 真			
連絡先	092-924-3939			
宿泊施設の稼働の現状とその分析及びそれらを踏まえた今後の取組と目標	当荘は万葉の時代から湧く温泉地にあり、3500坪の庭園のある純和風建築の旅館で、福岡市内、福岡空港から1時間以内という交通至便な立地にありながら外国人宿泊客は10%程度です。そのため筑紫野市と連携し取り組みを行い外国人観光客のSNS投稿を狙い、外国人宿泊者の滞在、当荘をベースにした観光の提案、回遊性、宿泊数の向上を図る。今後3年で稼働率平均65%以上、外国人宿泊者数10%UPを目標とする。			
客室稼働率の現状及び目標		<現状(令和元年度)>	<目標(令和2年度)>	<目標(令和3年度)>
	第1四半期 (4~6月)	53.4 (%)	60.0 (%)	65.0 (%)
	第2四半期 (7~9月)	54.0 (%)	60.0 (%)	65.0 (%)
	第3四半期 (10~12月)	65.0 (%)	66.0 (%)	68.0 (%)
	第4四半期 (1~3月)	50.0 (%)	57.0 (%)	62.0 (%)
訪日外国人宿泊者数の現状及び目標		<現状(令和元年度)>	<目標(令和2年度)>	<目標(令和3年度)>
	第1四半期 (4~6月)	574 (人)	610 (人)	640 (人)
	第2四半期 (7~9月)	600 (人)	630 (人)	660 (人)
	第3四半期 (10~12月)	600 (人)	630 (人)	660 (人)
	第4四半期 (1~3月)	700 (人)	735 (人)	770 (人)

特定事業	具体的な内容	○ (1)館内共用部の無料公衆無線LAN環境の整備					
		(2)館内共用部の洋式便器の整備					
		(3)自社サイトの多言語化					
		(4)館内共用部の国際放送設備の整備					
		(5)館内共用部の案内表示の多言語化					
		(6)オペレーターによる24時間対応可能な翻訳システムの導入又は業務効率化のためのタブレット端末の整備					
		(7)クレジットカード等決済端末の整備					
		(8)ムスリムの受入のためのマニュアルの作成					
		(9)一の客室における				の完備	
		① 無料公衆無線LAN環境の整備					
	② 洋式便器の整備						
		③ 多言語対応を図るための設備の整備					
		(10)その他()					
	実施時期	施行業者等との契約予定年月	令和元	年	7	月	下旬
		事業完了、代金支払予定年月	令和元	年	8	月	下旬
		利用開始予定年月	令和元	年	9	月	月上旬
	必要な資金の額及びその調達方法	補助対象事業区分				事業費	
		(1)館内共用部の無料公衆無線LAN環境の整備				1,094,800	
		(2)館内共用部の洋式便器の整備					
		(3)自社サイトの多言語化					
		(4)館内共用部の国際放送設備の整備					
		(5)館内共用部の案内表示の多言語化					
		(6)オペレーターによる24時間対応可能な翻訳システムの導入又は業務効率化のためのタブレット端末の整備					
		(7)クレジットカード等決済端末の整備					
		(8)ムスリムの受入のためのマニュアルの作成					
		(9)一の客室における				の完備	
	① 無料公衆無線LAN環境の整備						
	② 洋式便器の整備						
		③ 多言語対応を図るための設備					
		(10)その他()					
		合 計				1,094,800	
		自己資金	補助金	金融機関等からの借入金	その他	総事業費	
		730,800	364,000	0	0	1,094,800	

様式第1-1 別紙6

特定事業により上記目標達成が見込まれる理由

当荘をご利用される外国人宿泊者はご家族連れ、多くても7~10名程度の団体でネットエージェントからの予約が多く、特に海外向けに告知はしていませんがガイドブック、口コミ、SNSを見て予約したと仰るお客様が多いです。しかし、当荘のアンケートでは客室でwifiが使えないと思わなかった。との意見が多く、ホームページの多言語化を希望される声もありました。
当荘は6300坪の敷地がありますがwifi環境はロビー周辺だけでしたので本助成金を有効に活用し、敷地全体における設備の改善をおこないます。そして外国人観光客の滞在、リピーター増加につなげたいと考えます。さらに同温泉地の他温浴施設への回遊性、地域全体の活性化につながると考えます。

DMO(DMO又はその候補として観光庁長官の登録を受けた法人)又は地方公共団体と連携して地域の訪日外国人の宿泊者数を増加させるために行った具体的な取組み

平成31年4月29日 筑紫野市祭の藤まつりの日にあわせて筑紫野市と連携し着物でめぐる二日市温泉、人力車無料乗車体験を開催。
人力車の乗車場を当荘の東門(大正時代建築の木造の門)としました。
日本経済大学の留学生による留学生のショップも出店いたしました。
また東門には地域の協力を得てフラワーアートを飾りました。
外国人観光客に二日市温泉の認知度を高めるとともにSNS投稿を狙いました。